



地域と発電所の 接点に

美浜発電所勤務

佐竹 敏 さん(麻生)

Satake Satoshi

関西電力(株)に入社して、今年で31年目になりますが、私は、自分たちがつくっている電気が人々の生活基盤を支えているという事に誇りを持っています。

だからこそ、安全で安定した電力供給に努めなければならないという使命感を持って働いています。

発電所と地域が共生していくためには、私たちが分かりやすい情報の発信に努めるとともに、町民の皆様が関心を持っていただけるような工夫をしていかなければなりません。

今後も、地域の方々と発電所の接点をつくっていくことが自分の仕事だということを忘れず、日々の業務に邁進していきます。



地元で働けることを 嬉しく思います

三菱商事(株)勤務

澤田 彩奈さん(竹波)

Sawada Ayana

発電所内の協力会社に勤務し、今年で4年目になります。

小さい頃から発電所が見える場所で生活しているせいか、それに対して特別な思いはなく、どちらかと言えば風景の一部といった感じがします。

発電所内では、関西電力(株)だけでなく、私たち協力会社を含め、多くの方が働いています。初めは、原子力関係の専門用語や略語を覚えるのに苦労しました。だけど、地元の知っている人もたくさんいて、どこか安心でき、私自身、地元で就職できて良かったと思っています。

- ①安全を何よりも優先する
 - ②安全のための資源投入
 - ③安全のために保守管理の継続的な改善とメーカー・協力会社との協業体制の構築
 - ④地元の信頼回復
 - ⑤取り組みの評価と公表
- といった5つの基本行動方針を
- この事故の後、関西電力(株)では再発防止に向けて、「安全を守る。それは私の使命、我が社の使命」という社長宣言のもと



関西電力(株)の原子力保全改革検証委員会に出席した山口町長は事故の再発防止対策をより強化するよう求めた。

掲げ、全社を挙げて再発防止対策を確実に実施していくことを社会に約束しました。
平成17年7月25日には、その

一つとして地域の声を発電所運営や経営に生かしていくとして原子力事業本部を美浜町に移転させました。

高経年化対策の強化

高経年化対策とは、安全第一を目的に発電所の使用期間に関係なく一定の安全水準を確保するため、性能の低下等の特徴を把握し、これらに対応した保守管理を行うことをいいます。

国は、平成8年に30年を超える原子力発電所については、安全上特に重要な機能や構造物(原子炉容器・配管等)について60年間の運転を仮定した長期間の使用に対する健全性を確認し、時

間の流れとともに劣化する事象の発生や進行傾向に対して、現状の保全活動の妥当性や耐震性の影響等について評価する「高経年化技術評価」と、その評価に基づき今後10年間で必要となる点検や機器の取り替えを追加保全策として「長期保全計画」に取りまとめ確実に実施するよう求めました。

その後、平成15年にはその手続きを義務化し、さらに美浜3号機の事故を受け、平成18年にはその評価等を国へ報告することを義務づけました。

また、平成21年には、国の認可事項とするなど段階的に高経年化対策を強化しています。





今後も「原子力の灯」を 後世へ

美浜町長

山口 治太郎

Yamaguchi Jitarō

関西電力(株)美浜発電所1号機は、昨年11月28日に昭和45年の同日に営業運転を開始してから丸40年を迎えました。

1号機は、我が国初の加圧水型軽水炉で、国産化技術の礎となり、関西電力(株)にとっては美浜に続く高浜、大飯発電所とその設置に先鞭をつけてきました。また、多くの経験をもたらし、多くの技術者を育てる等、これまでに我が国の原子力発電技術の進歩に果たしてきた役割は極めて大きなものであったと思います。

また、美浜発電所では、平成3年の2号機蒸気発生器細管破断事故、平成16年8月の11人もの死傷者を出した3号機2次系配管破断事故と2度の大きな事故がありましたが、そこからは品質管理の向上や高経年化対策の強化、安全文化の醸成活動といった更なる安全や安心の確保へと取り組みが強化されました。

一方で、誘致の目的とした地域振興面では、建設に伴う経済や雇用効果、道路整備等の期待は少なからず叶えられましたが、電源三法交付金制度創設前であったことから、後発地域に比べると十分な恩恵を受けられなかったという一面があります。しかしながら、交付金制度の制定や更なる拡充、また安定した税収の確保等によって本町のまちづくりを支えてきたことは申し上げるまでもありません。

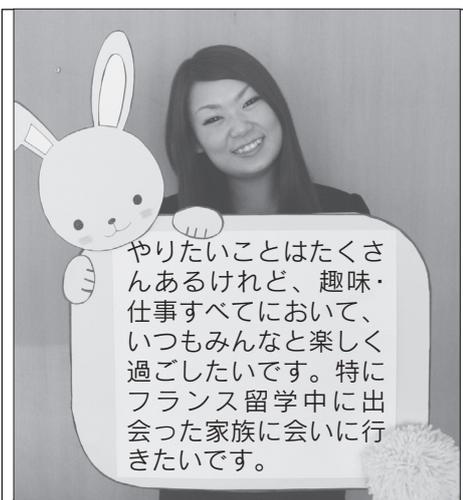
ところで、原子力発電を取り巻く昨今の情勢は、地球温暖化やエネルギー資源の確保といった面から脱原子力政策を進めてきた国々でも原子力回帰(原子力カルネサンス)が進み、発展途上国や産油国でさえも原子力発電所建設が計画されるまでになってきています。我が国においても、一昨年の国連会合での温室効果ガス25%削減表明等を受けて、昨年6月にまとめられた「エネルギー基本計画」では、原子力発電を中長期的な基幹エネルギーとして着実に新增設を目指すとされているところです。

そうした中、美浜発電所1号機は40年を迎え、町では最長でも10年程度の運転を了承することとし、併せて運転停止後の後継機について、関西電力(株)による自主的な設置可能性調査を地元の理解を得ながら速やかに実施し早期に構想を示していただくことや、一層の地域共生に配慮いただくこと等を要請いたしました。

私としましては、今後とも町民の皆様のご理解を得ながら、原子力発電所と共生するまちづくりを目指し、原子力発電所が立地する町ならではの誇りと自信の持てるまちづくりを一層、着実に進めていくべきであると考えているところです。

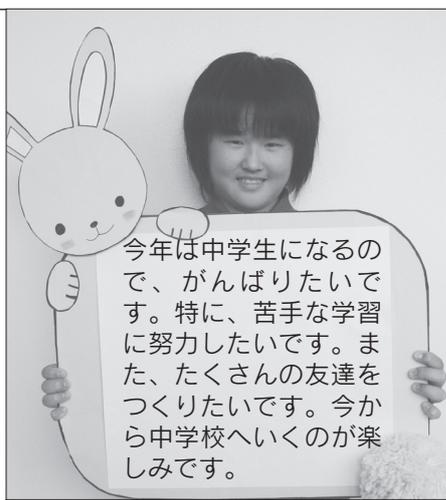
最後に、この美浜町がこれまで発展してまいりましたのは、半世紀もの前に将来を見据えて原子力発電を誘致された多くの先達のご苦勞やご尽力のおかげであり、ここに改めて深甚なる敬意を表しますと共に感謝を申し上げます。





やりたいことはたくさんあるけれど、趣味・仕事すべてにおいて、いつもみんなと楽しく過ごしたいです。特にフランス留学中に会った家族に会いに行きたいです。

武長 美里 さん(佐柿)



今年は中学生になるので、がんばりたいです。特に、苦手な学習に努力したいです。また、たくさんの友達をつくりたいです。今から中学校へいくのが楽しみです。

北山 愛美 さん(河原市)



僕は中学校にいったら、部活は卓球をすると思うので、いろんなサーブや返し方等の練習をがんばりたいです。

鳶本 新 さん(新庄)

昭和62年(1987年)



美浜の出来事

・美浜のMとハート・海を図案化した町シンボルマーク策定

日本の出来事

・国鉄が分割民営化しJRが発足

世界の出来事

・利根川進氏がノーベル医学・生理学賞を受賞

平成11年(1999年)

美浜の出来事

・大雨により町内各地で床上浸水や土砂崩れ等の被害が続出

・平成13年2月の開局に向け、美方ケーブルネットワーク(株)「MMネット(愛称)」が発足

日本の出来事

・だんご3兄弟が大ヒット

・65歳以上の人口が2,000万人を突破

世界の出来事

・欧州通貨統合で「ユーロ」が誕生



今年ほうきぎ年

年男・年女の方々の

今年の抱負



本町の「卯年」生まれの方は全員で843人。

その中から9人の方に登場いただき、今年の抱負等を自由に語っていただきました。

今回は、抱負のほかに、各世代で起こった出来事も掲載しています。卯年は何かと日本初・世界初の出来事が多いようです。

今年はどうのような出来事が起こるのか楽しみです。